

公園

暖かな日射しの下に花びらは舞い
僕は春の中に立っていたのです

池の面^もにゆらゆらと陽光^{ひかり}は遊び
僕は明日、出発とうとしているのです

眠りさえ誘うほどに大気はかすみ
僕は涙してもいたろうか、寂しさに

並木の間の散歩道で人々は微笑み
僕はピアノを奏きたくなる、舟歌を

静かに息づいて午後は淀むように
僕はふと微笑する、顔を上げ

詩人であることの哀しさも
独りであることの淋しさも

溶かし去ればいい、温もりの中に
あるかなきかのように、ぼんやりと

一枚、ふと息づいて、また一枚花びらが
きらめく水面^{みなも}に息絶える

(1985.4.5)